

# 議 事 録

## 第 1 回 班 会 議 議 事 録

と き 昭和56年9月14日(金) 11時～15時  
と ころ 大阪駅前, 第一生命ビル12階 好文くらぶ

出席者 竹村 喬, 品川信良, 森 一郎, 真木正博, 我妻 堯, 室岡 一

### 議 題

#### 1. 経過報告

##### 1) 昨年度の経過

- ① 班会議は, 昭和56年3月7日(土) 東京全共連ビル会議室で開かれ研究報告を行なった。
- ② 研究報告書並びに決算, 報告書を班長宛3月24日提出した。

##### 2) 本年度の経過

- ① 昭和56年4月11日, 分科会々長の会議が東京プレスセンタービル10階「アラスカ」で開催され, 本年度の研究計画について討議した。
- ② 6月5日, 本年度研究計画を提出した。

#### 2. 本年度の研究計画

前記6月5日提出の本年度研究計画を別紙により説明報告。

#### 3. 妊産婦死亡の原因について

厚生省統計部のご好意により調査し得た昭和54年妊産婦死亡調査について, その結果を報告するとともにこれに対する意見を聞いた。

本調査はICD 630～647に相当する383例について行なわれた。産科医の立場からこれを見ると, 衛生統計とは若干趣きを異にしていた。すなわち死亡原因としては, 出血が最も多く, 妊娠中毒症, 外妊の順であった。そして心疾患, 羊水栓塞, 血管障害, 産科ショックなど救急的性格の強いものが24.2%あり, 出血(46.5%)を併せて70.7%にも達し, 産科救急との関連性が強く示唆された。この成績は衛生統計と若干異なるところから, その相違点について種々の意見交換を行なった。その主なるものは次の通りである。

- ① 診断書に問題があるのではないか。たとえば, 帝切, 仰臥位低血圧症候群などでの死亡はどのような原因になっているか。など
- ② 疾病分類について, 産科側の意見がどの程度反映しているか疑問である。この点日母, 日産婦とも協力して厚生省と話しあう必要があるのではないか。
- ③ 妊産婦死亡の原因については日母で調査されているが, これをもっと組織的にすべきで死亡調査委員会を設けるか, 日産婦に登録委員会を設置するなど死因の究明をはかるべきである。

#### 4. 妊産婦死亡の予防

妊産婦死亡原因よりみた妊産婦死亡の予防について別紙のような案が示され討議した。

#### 5. ガイドブックの作成

本研究班の性格から, 3年間の成果として, ガイドブックを作成してはどうかという意見が出され, 全員これを了承, その作成に向って努力することになった。ただ, 名称や日母との関係, 経費など問題点が残るのでその対策を考えることにして, 次回具体案を練ることになった。主なる意見は次の通りである。

- 1) 名称については妊産婦死亡の字句を用いるよりは「産科緊急……」「母体緊急症の対策」「…  
…予防」などのように和らげた方がよいのではないか。
- 2) 対 象  
臨床医家，とくに産科医向けに。
- 3) 体 裁  
日母研修ノート 50～60頁  
重点的に，イラスト入りの啓蒙を十分にできるようにする。
- 4) 日母との関係  
日母で同様のものを作成するかどうかについて森班員から古谷，前原先生に交渉してもらおう。  
経費について室岡班長より厚生省に打診してもらおう。この場合も日母との関係も考慮する必要がある。

## 分科会議事録

### ハイリスク母児管理班 分科会 「周産期死亡の発生防止に関する疫学的研究」

日時 昭和56年11月2日 午後3時～6時  
場所 ホテルサンルート高知

出席者 武田佳彦（高知医大）  
荒木勤（日本医大）  
小川雄之亮（名古屋市大）  
小林英郎（北里研究所）  
神保利春（香川医大）  
堤紀夫（国立大蔵病院）  
浜田宏（聖マリアンナ医大）  
堀内勤（聖マリアンナ医大）

#### 議事

##### 1) 研究計画

- ① 周産期死亡の発生防止に関する疫学的研究（武田佳彦）
- ② 周産期死亡の対策に関する研究（神保利春）
- ③ 妊娠から分娩、乳幼児期にいたる疾患の追跡データに  
基づく母子健康管理システムの研究（小林英郎）

昨年度本研究班で作製した統一調査カルテサマリーについて説明し、班全体としての調査研究を行うことに決定した。

- 2) 次回会議 昭和57年2月5日
- 3) 諸報告および本部連絡（荒木勤）

#### 議事録

上記スケジュールにより各分担研究者より研究報告・計画が発表され、活発な質疑応答がなされた。

## 第 2 回 班 会 議 議 事 録

と き 昭和 56 年 12 月 2 日 (水)  
と ころ 鹿児島市 百合華  
出 席 者 竹村, 真木, 森, 工藤, 荒木

### 議 題

#### 1. 事務連絡 (荒木)

##### 1) 研究費

本年は第 2 年度 (昭和 56 年度) で来年度 (昭和 57 年度) でまとめる方針である。室岡班の研究費は 4,200 万の予定で竹村は 45 万, 他は 35 万になる。

2) 次回分担研究者会議, 2 月 26 日 (金) 東京で行なわれる予定。

3) 厚生省人事異動 (担当課長, 課長補佐) 福渡課長 → 谷課長。池内課長補佐 → 松橋課長補佐。

4) 口座通知, 報告書, 改めて通知する。

#### 2. ガイドブックの作成について

規模, 体裁, 内容, 印刷方法などについて討議し別表のような案を全員了承した。経費とにらみあわせ, 可能な限りのものを作る。とりあえず本分科会の経費内で 200 部ぐらい作ることで合意をみた。

#### 妊産婦死亡, 予防のためのガイドブック (案)

1) 体 裁 日母, 研修ノート A5 判 120 ~ 130 頁 原稿用紙 320 ~ 350 枚  
図表を含む。

2) スケジュール 原稿依頼 56 年 12 月  
原稿不切 57 年 5 月  
編 集 57 年 6 月  
印刷開始 57 年 7 月  
初 校 57 年 9 月  
印 刷 57 年 10 月  
完 成 57 年 12 月

#### 3) 内 容

##### 1. 妊産婦死亡の現状

年次推移	森	} 20 枚
地域差	森	
諸外国との比較	我妻	20 枚

##### 2. 妊産婦死亡の原因 40 枚

衛生統計	竹村	10 枚
実態調査	竹村	10 枚
	森	10 枚
剖 検	品川	15 枚

##### 3. 妊産婦死亡と high risk pregnancy

竹村 25 枚

4. 妊産婦死亡と産科ショック	真木	25枚
5. 諸外国における妊産婦死亡	我妻	25枚
6. 妊産婦死亡の予防対策		
1) ハイリスク妊娠の管理	品川	25枚
2) 産科出血とその対策	真木	40枚
3) 産科ショックの対策		
4) 産科救急体制	竹村	25枚
5) 周産期医療の組織化		
① 離島	森	10枚
② 僻地	品川	10枚
③ 都会	竹村	10枚

ハイリスク母児管理班  
「子宮内胎児発育の実態調査」分担会

開催日： 昭和57年1月30日(土) 午後2:00～4:00

場 所： 好文クラブ (大阪市)

出席者： 倉智敬一 (大阪大学)  
久保惣平 (国立西埼玉中央病院)  
仁志田博司 (北里大学)  
浅田昌宏 (大阪大学)  
青木嶺夫 (大阪大学)

議 題： ① 56年度の研究成果  
② 57年度の研究予定

目 的： ① 研究分担者間の研究成果の討論  
② 子宮内胎児発育曲線作成上の基準値の決定と新生児臨床データの集取方法についての  
提案

## 分科会議事録

### ハイリスク母児管理班 「極小未熟児の発生予防と管理に関する研究」

昭和57年2月13日 午後2時～6時30分 於：東京ステーションホテル

1. 分科会長 あいさつ 坂元正一
2. 研究報告（発表7分，討論5分）
  - (1) IUGRの診断基準と実態調査 座長 坂元正一
    - 超音波計則による胎児発育診断の評価
      - ・浅田昌宏（大阪大学 倉智敬一代）
    - 超音波胎児腹部前後径測定による胎児発育診断
      - ・久保惣平（国立西埼玉中央病院）
    - 子宮内胎児発育の実態調査「子宮内胎児発育曲線」
      - ・仁志田博司（北里大学）
  - (2) 胎児の成熟度の診断とRDS発生防止 座長 坂元正一
    - 羊水中カテコラミン系物質の測定と胎児成熟度について
      - ・工藤尚文（岡山大学）
    - 切迫流産の胎児発育におよぼす影響特に内分泌環境に関する研究(1)
      - ・相良祐輔（高知医科大学）
    - 妊娠高血圧症の内分泌学的分析に関する研究
      - ・望月真人（神戸大学）
    - 胎児発育度の判定－胎児腎の発育－
      - ・佐藤章（東北大学）
    - 胎児成熟度と胎児行動の発達
      - ・上妻志郎（東京大学 坂元正一代）
  - (3) 早期陣痛発生防止に関する研究 座長 千村哲郎
    - 切迫早産例に対する ritodrine の子宮収縮抑制効果
      - ・北川浩明（東京大学 佐藤和雄代）
    - 「ズファジラン」®(isoxsuprine) の胎児・新生児に及ぼす影響
      - ・内藤達男（国立小児病院）
    - 切迫早産における各種 tocolysis の子宮収縮抑制とその影響
      - ・千村哲朗（山形大学）
  - (4) 極小未熟児の哺育指針 座長 奥山和男
    - 脳室内出血の病因に関する若干の検討
      - ・赤松洋（日赤医療センター）
    - 極小未熟児の経静脈栄養
      - ・滝田誠司（昭和大学 奥山和男代）
3. あいさつ 厚生省児童家庭局母子衛生課 谷修一 課長
4. 諸報告及び事務連絡 事務会計幹事 越野立夫

分科会出席者名簿

ハイリスク母児管理班  
「極小未熟児の発生予防と管理に関する研究」

昭和57年2月13日 午後2時～6時30分 於：東京ステーションホテル

出席者名	所 属
坂元正一	東京大学
桑原慶紀	東京大学
杉本充弘	東京大学
北川浩明	東京大学
上妻志郎	東京大学
望月真人	神戸大学
工藤尚文	岡山大学
岸本廉夫	岡山大学
尾嶋由里子	岡山大学
千村哲朗	山形大学
越野立夫	日本医科大学
久保惣平	国立西埼玉中央病院
滝田誠司	昭和大学
鈴木隆久	昭和大学
赤松和洋	日赤医療センター
佐藤雄章	東京大学
佐藤章祐	東北大学
山田昌宏	東北大学
浅田昌達	大阪大学
内藤	国立小児病院



## ハイリスク母児管理班 分科会

### ハイリスク児の医療対策に関する研究および ハイリスク児の救命に関する研究

#### 議 事 録

日 時： 昭和57年2月15日  
場 所： 国際観光ホテル(東京)  
出席者： 馬場 一 雄 (日大)  
井村 総 一 (日大)  
新津 直 樹 (日大)  
高田 昌 亮 (日大)  
多田 裕 (都立築地産院)  
志村 浩 二 (静岡こども病院)

本年度は未熟児のクル病予防あるいは治療について日大、築地産院、静岡こども病院の3施設での調査成績をもとに臨床的検討を行った。各研究者より調査成績の報告があり、クル病発生产予防あるいは治療についての基準作成を討議した。また本年度の事務処理について再確認がなされた。

1. 極小未熟児のクル病予防に対する  $1\alpha\text{-OH-D}_3$  の効果に関する臨床的検討 (馬場一雄)
2.  $1\alpha\text{-OH-D}_3$  の未熟児くる病予防効果に関する研究 (多田 裕)
3. 未熟児クル病の予防： $1\alpha\text{-D}_3$  投与の効果について (志村浩二)

厚生省 母児ハイリスク研究  
分娩時胎児管理研究班

昭和57年2月19日 会議議事録

場 所 市ヶ谷駅前 私学会館

出 席 前田一雄, 新井正夫, 西島正博, 寺尾俊彦, 諸橋 侃, 辰村正人(会議補佐)

議 事

1. 文献調査カードを完成し持ち寄った。
2. 上記カード内容をIBMカードにパンチする。
3. 内容リストをとる。その後の問題はさらに検討の上実施する。
4. NIH「Antenatal Diagnosis」の関係部分を和訳し報告に用いる。
5. 各研究者の発表。

ハイリスク母児管理班 分科会  
NICU の運用管理に関する研究

議 事 録

日 時： 昭和57年2月22日  
場 所： 国際観光ホテル（東京）  
出席者： 馬 場 一 雄 （日 大）  
井 村 総 一 （日 大）  
高 橋 滋 （日 大）  
新 津 直 樹 （日 大）  
松 村 忠 樹 （関西医大）  
岩 瀬 師 子 （関西医大）  
木 下 洋 （関西医大）  
植 村 恭 夫 （慶 大）  
小 宮 弘 毅 （神奈川こども医療センター）  
越 野 立 夫 （日医大）  
谷 修 一 （厚生省）

各分担研究者より下記分担課題について本年度の研究成果が発表され、一題ずつ質疑応答がなされた。  
また事務的事項として本年度の研究報告書ならびに会計報告書作成について再確認がなされた。

1. ハイリスク児の医療対策に関する研究およびハイリスク児の救命に関する研究  
（分担研究者 馬場一雄）
2. ハイリスク児の intact survival に関する研究  
（分担研究者 松村忠樹）
3. 未熟児網膜症の成因と予防に関する研究  
（分担研究者 植村恭夫）
4. ハイリスク児の医療システムに関する研究  
（分担研究者 小宮弘毅）

分娩周辺における児の安全管理に関する研究  
昭和56年度 分科会議事録

日 時 昭和57年2月23日  
場 所 私学会館

分科会長 室 岡 一 挨拶  
厚生省母子衛生課長 谷 修 一 挨拶

I 胎児監視システムのあり方

(司会 室 岡 一)

- |  |       |         |
|--|-------|---------|
| ① HSAP曲線の type と pattern 分析による IUGRの判定           | 奈良医大  | 森 山 郁 子 |
| ② Rhesus monkey のFHRの変動について                      | 日 大   | 吉 田 孝 雄 |
| ③ 本邦における胎盤性 Sulfatase 欠損症<br>— 低 Estriol 症例の鑑別 — | 昭 和 大 | 矢 内 原 巧 |
| ④ 多項目の胎児胎盤系機能検査値による胎児予後判定法                       | 東 大   | 桑 原 慶 紀 |
| ⑤ 胎児監視システムのあり方<br>— FHR monitoring の判定指針について —   | 日 医 大 | 松 本 二 朗 |

II 分娩管理の胎児予後改善効果確立に関する研究および最新の分娩管理技術に関する研究

(司会 前 田 一 雄)

- |  |       |                       |
|--|-------|-----------------------|
| ① 胎児心拍自動解析装置を用いたハイリスク胎児の分娩管理                 | 浜松医大  | 寺 尾 俊 彦               |
| ② 胎児組織血 pH 電極に関する研究<br>会話型胎児監視装置に関する研究       | 慶 応 大 | 諸 橋 侃                 |
| ③ 計画麻酔分娩における分娩監視完全実施による<br>帝王切開率および児への影響     | 北 里 大 | 西 島 正 博               |
| ④ ハイリスク児の予後評価(2報)                            | 佐 賀 大 | 中 野 仁 雄               |
| ⑤ 胎児心拍数図自動解析パラメータと臍帯動脈所見の<br>比較およびトレンドグラムの検討 | 鳥 取 大 | 前 田 一 雄               |
| ⑥ 諸外国における、胎児予後改善のための分娩時管理の現況調査               |       | 前田, 新井, 諸橋,<br>寺尾, 中野 |

III 児側からみた産科施設改善のための問題点—分娩室内管理の正しいあり方—

(司会 前 川 喜 平)

- |   |       |         |
|---|-------|---------|
| ① 新生児側からみた分娩の Trauma 性と<br>分娩所要時間の限界に関する研究                            | 飯野病院  | 香 月 義 美 |
| ② 胎児副腎機能監視の必要性  | 富山医薬大 | 柳 沼 恣   |
| ③ 帝王切開児における Brazelton 新生児行動評価の試み                                      | 慈恵医大  | 川 崎 千 里 |
| ④ 脳障害早期発見のための研究—<br>— 臍帯血および新生児の (Tμ, Tr) に関する研究<br>新生児の State に関する研究 | 慈恵医大  | 前 川 喜 平 |

分科会出席者名簿

出席者名	所属
谷 修 一	厚生省
香 月 義 美	飯野病院
川 崎 千 雄	日 和 大
吉 田 孝 原 巧	昭 良 医 大
矢 森 内 山 郁 子	奈 浜 医 大
寺 尾 川 俊 喜 彦	慈 惠 医 大
前 瀬 川 川 孝 昭	慈 惠 医 大
竹 桑 田 原 慶 省	東 京 大
諸 西 橋 島 紀 侃	東 京 大
前 室 田 岡 博 雄	北 鳥 取 大
荒 岡 木 一 勤	日 日 医 大
越 野 立 夫	日 日 医 大
松 本 倉 二 啓	日 日 医 大
朝 倉 二 啓	日 日 医 大

厚生省 ハイリスク母児管理班  
昭和56年度総会及び評価委員会

議 事 録

日 時 昭和57年2月26日(金) am 10:00 ~ pm 4:00  
場 所 私学会館

出席者 厚生省母子衛生課 谷 修 一  
主任研究者 室 岡 一  
評価委員 山 村 博 三  
小 川 次 郎  
森 山 豊  
分科会長(幹事) 坂 元 正 一  
武 田 佳 彦  
馬 場 一 雄  
竹 村 喬  
分担研究者(班員) 倉 智 敬 一 (代理 浅田昌宏)  
千 村 哲 朗  
奥 山 和 男  
須 川 豊  
前 田 一 雄  
前 川 喜 平  
神 保 利 春  
松 村 忠 樹  
植 村 恭 夫  
小 宮 弘 毅  
研究協力者及び  
協同研究者 桑 原 慶 紀  
杉 本 充 弘  
鈴 鹿 隆 久  
香 月 義 美  
小 林 英 郎  
荒 木 勤  
越 野 立 夫  
竹 下 俊 行

議 事 1. 主任研究者挨拶 ..... 室 岡 一  
2. 厚生省挨拶 ..... 谷 修 一  
3. 研究発表

I 極小未熟児の発生予防と管理に関する研究

① IUGRの診断基準と実態調査

分科会長(司会)坂元正一  
倉智敬一(代理 浅田昌宏)

- |    |   |                  |
|----|---|------------------|
| ②  | 胎児の成熟度の診断とRDS発生防止                           | 坂元正一             |
| ③  | 早期陣痛発来防止に関する研究                              | 千村哲朗             |
| ④  | 極小未熟児の哺育指針                                  | 奥山和男             |
| Ⅱ  | 周産期死亡の原因と対策に関する研究                           | 分科会長(司会) 武田佳彦    |
| ①  | 統一カルテによる周産期統計                               | 武田佳彦             |
| ②  | 周産期死亡発生防止のための指針作成                           | 神保利春             |
| ③  | 母児健康管理システムの研究(追跡データ)                        | 須川 豊             |
| Ⅲ  | 分娩周辺における児の安全管理に関する研究                        | 分科会長(司会) 室岡 一    |
| ①  | 胎児監視システムのあり方                                | 室岡 一             |
| ②  | 分娩管理の胎児予後改善効果確立に関する研究<br>および最新の分娩管理技術に関する研究 | 前田一雄             |
| ③  | 児側からみた産科施設改善のための問題点<br>— 分娩室内管理の正しいあり方      | 前川喜平             |
| Ⅳ  | NICUの運用管理に関する研究                             | 分科会長(司会) 馬場一雄    |
| ①  | ハイリスク児の医療対策に関する研究および<br>ハイリスクの救命に関する研究      | 馬場一雄             |
| ②  | ハイリスク児のintact survivalに関する研究                | 松村忠樹             |
| ③  | 未熟網膜症の成因と予防に関する研究                           | 植村恭夫             |
| ④  | ハイリスク児の医療システムに関する研究                         | 小宮弘毅             |
| V  | 妊産婦死亡予防のための具体的対策に関する研究                      | 分科会長(司会) 竹村 喬    |
| 4. | 評価委員による研究の評価 ……………                          | 山村博三, 森山 豊, 小川次郎 |
| 5. | 主任研究者挨拶 ……………                               | 室岡 一             |

上記スケジュールにより各分担研究者から昭和56年度研究報告を資料にもとづき発表され、活発な質疑応答があった。

#### 評価委員の評価

厚生省ハイリスク母児管理班の研究は2年目を終了し大変興味深い有意義な研究が多く、また周産期の研究の進歩は著しいものがあると感じた。さらに研究発表だけにとどまらず、厚生省の行政に反映し、新生児死亡、乳児死亡、母体死亡の減少に少しでもつながることが切に望まれる。この点について研究成果が技術化され、臨床に応用され実際に必要なことが厚生省の意向にそいながら進歩して行くことが必要であろう。

この研究はあと1年あるのでさらに良い研究成果をあげてもらい、来年度にはまとめの発表を期待したい。